

## 第5回中原区区民会議運営部会会議録摘録

1 開催日時 平成25年9月20日(金) 午後2時00分～午後4時00分

2 開催場所 中原区役所5階501会議室

3 出席者

委員 川連部会長、富岡副部会長、板倉委員、稲富委員、反町委員、藤嶋委員、成田委員  
事務局 小野副区長

企画課 今井課長、江口担当係長、倉見担当係長、深谷職員、大崎職員、野並職員  
地域振興課 日向課長

社会空間研究所 中島さん

4 議題

(1) 会議録確認委員の選任

(2) 第6回中原区区民会議の運営について(公開)

ア 3つ目の審議テーマについて(公開)

イ 課題調査部会委員の改選について(公開)

(3) その他(公開)

5 傍聴者 なし

6 会議内容

(1) 会議録確認委員の選任

藤嶋委員を選任した。

(2) 審議テーマ ア「3つ目の審議テーマについて」に関する調査検討について

川連部会長 第5回区民会議では、3つ目の審議テーマを「魅力発信」にしたいという意見でまとまった。具体的にどのような視点で「魅力発信」について議論していくかを決めていく。

事務局 第6回区民会議の3つ目の審議テーマを考える。

資料1、2、3の説明。(平成24年度報告書のおさらいと第5回区民会議で出された意見)

事務局 区の魅力資源となりそうなものを確認し、区の取組について説明した。本日は、「魅力発信」に関して課題となるものやアイデア等を出して頂き方向性を考え、課題調査部会で検討していく。

藤嶋委員 ところで、小杉駅周辺のビルの乱立について、まちのイメージや美観を考えてほしいと思う。道路の狭さについても気になる。

事務局 中原街道は、都市計画道路になっていて、将来的には変わっていくという計画になっている。都市計画決定の段階なので、将来事業化される時に市民が意見を言える場があると思う。

川連部会長 区民会議ではとりあげにくい。大きな建物と一緒に商業施設が出来るので、既存の商店街にも影響があるが、区民会議の議論としては難しい。

事務局 区民の皆さんが主体の中心になって魅力の発信の為にどんなことが出来るか。も

しくは、区民と行政が協働で行うことが区民会議のテーマになってくると思う。

川連部会長 新しい住民が沢山増えて、今まで住んでいる住民とのコミュニケーションをこれからどうやってとっていくのか。

板倉委員 伝統的なおみこしを担ぐ行事と若い人達が好きなハロウィンでは大分違う。なかなか住民の間でつながらない。

事務局 中原区の行事を資料で知ったものに行ってみたいという声も聞くので、情報を知らないから行かないということもある。

板倉委員 お祭りの中でお菓子を配るが、宣伝して人を集めると町内会費を払っていない人に配るのはどうかという意見が出ることもある。

川連部会長 マンションの方で町会に入らない人が増えているので、こういう問題が起きてしまう。

板倉委員 藤嶋委員の方から話があったが、僕は高層ビルも資源に入るのはではないかと思う。屋上に上がってもらって、100mの高さから中原区を見るのはよいことではないか。

川連部会長 今度、街歩き探検が行われる。その中に高層マンションの上から自分の家を探しましょうという案が出ている。

反町委員 高層マンションが立ち並びだした時に景色が変わってしまった。今は慣れてしまって、新しい住民が沢山入ってきて、地価の上昇率は日本一で注目されている。それも中原区の魅力で、目玉の1つとしてPRしていこうと思っている。

事務局 今意見として出たのは、高層ビルも魅力の1つとなりうるのではないか。中原区のテーマとして共通に「新旧住民の交流」がある。また、今ある伝統文化をどうPRしていくのか。さらには、担い手になってくれる団体とどう連携していけばよいのかという課題がある。

川連部会長 本日出ている資料「中原区魅力資源」を区民に発信していくのは、良いと思う。

稲富委員 「なんでも鑑定団」をよびたい。主体者は、街にいる出展者で自ら情報を出して、新しい人達も入ってくるとよい。また、中原区民祭の一角に「文化と伝統の紹介」をして、PR活動も組込めたらよいと思う。あと、お祭りを使って、スタンプラリーを行う。また、中原音頭をつくって、盆踊りで流して、歌で伝えていく方法もあるのではないか。定期的に紹介していくことが良いのではないか。

川連部会長 以前から区民会議として区民祭に出展しようという話は出ているが、皆さん別の団体に関わっているので、ずっといられる方がいないためテントが出せない。

稲富委員 区民祭は一例であって、いろんな取組をしているので空いたところに出しても良い。出番を求めている方と提供できる側との間に文化が伝えられたらよいと思う。

事務局 区民会議として出展するかあるいは、他にも市民活動団体が区内に沢山あるので、働きかけてこういうことが出来るがどうですかという連携の仕方もあるのではないか。

富岡副部会長 先日総合防災訓練があつて、NPO 法人と区民会議が1つのテントを半分に分けて、資料配布していたが貰ってくれる人がいない。置いておくだけでは、持って行ってはくれない。

稲富委員 マップをもたせてスタンプラリーのような形にすれば、子どもは喜んでやると思

うので、工夫が必要だと思う。

成田委員 小学校単位になるとそれぞれの学区内の歴史を調べるとか、地元の商店を散策するとか地元の方との交流も出来る。それ以外の引っ越してきたばかりの方とそのお子さんは、もう保育園に預けてしまったという形で、つながりが全然もてていない。近所でお祭りがやっているとかふらっと連れていこうかなと思うが。迎え入れる側も意識を変えないと難しいと思う。行く側もただ見に行くというスタイルなのか、神輿をかつぐという意識を持つのか、世代間のギャップもあると思う。高層マンションで行っている子育てサロンと従来からある子育てサロンと両方に顔を出すようにしてみて、その印象としては、新しく入ってきた方は、情報発信が上手くて連絡事項も周知にネットを使ったりしている。ただ、昔ながらのノウハウが無いので、どんなふうに地域とつなげていったらよいか分からない。昔からある側は、子育てを応援してくれる人がこういう所にいるとか、歴史的な場所がここにあるとか蓄積があるが、どこに出して良いか分からないので、それを吸い上げる基地を持っていない。それを結び付けるのはどうしたらよいかずっと考えている。そのギャップを埋める形があれば、自然に足を運んでいただける手掛かりになるのではないかと。

事務局 昔からいる人達には、呼びかけがあり、今の若い人たちのやり方もある。それが分かれています。

成田委員 1つのイベントに対して、行ったのに何もしてくれなかったというのと、来たのに何も手伝わなかったという意識の違い。コミュニケーションが不足している。昔ながらの住宅地域の中で2代目・3代目が出てきたらスムーズだが、新しい環境に入ってきた人同士が、つながりをもって地域に溶け込むのは大変である。

事務局 反町委員は、生まれも育ちも中原だが、多世代の交流はどうか。

反町委員 私は、立ち位置が違うので、同世代の代表にはなれない。長く地元に住んでいる方でも世代の違う方との交流をスムーズに取られている方は、相当少ないと思う。

事務局 入り込めない理由は何があると思うか。

反町委員 20代・30代の方々が、意識してわざわざ世代の違う人と交流を持とうという理由が無い。皆、インターネットとかで満ち足りてしまっているのだから困らない。昔だったら、それは地元の誰誰に聞かないとわからないということもあっただろうが。

事務局 小さい地域でも世代で分かれてしまう。区レベルで広げると新しく来た人と前から住んでいる人と交流がとりづらいのは似ている課題なのか。

反町委員 世代が離れているということだけではなく、ご近所との交流が取りづらいのではないかと。近所に同世代の方がいても積極的に交流してという状況になりにくいのではないかと。

富岡副部長 先日、中町で子ども会があり神輿を担いだ。子ども会の親が沢山参加してくれて盛大に行われた。ある町会では、子ども会も無くて、雨だからお神輿も出せなかった。また他の町会では、子ども達に太鼓を教えていて、高層マンションの子ども達も習いにきていて、お祭りでそれを披露した。子ども・親・町会が交流のあるところは、まちのつながりが深くなる。そういう行事も無く、年寄りだけでお祭りを行っている所は、何も地域の交流が無くなっている。やり方を上手くしないとつな

がっていかない。近くに法政二高があって、通学路がふさがってしまうと、商店街から苦情がきていた。学校の先生が交通整理をしたり交流会を行ったりした。その結果、商店街で流しそうめん等をやると学生も来たり近所からも来たりいろんなつながりが出来た。イベントが根付いたら強いと思う。NPO 法人と住民同士のつながりをやっていて、小杉3丁目の商店街で餅つき大会を7年やっているし、高層ビルの理事会からハロウィンをやろうといわれている。祭りやイベントで地域住民をつなげていくことができる。

事務局 目的をもってやっていくことが大事である。

川連部会長 商店街の売り上げには貢献しないが、イベントをやらないと人が集まらない。春と秋に毎年イベントを行っているが、まちの中にマンションがあって、その近くでイベントをやるとマンションから苦情がくる。商店街に場所も無いので、イベントを行うのも大変な状態である。

事務局 中原区の歴史・文化は良いものがあるので、効果的な PR の方法を考えていく。それを活性化するためには、区民一人一人の意識が大事で、行事を行う側の意識と参加する側の意識が変わらないと交流が出来ないし、行事も活性化しないのではないか。新しい住民が地域に入っていけるステップも考える必要がある。イベントをやると苦情がでて、住民が分かれてしまうという課題もある。こういう方向性でというアイデアがあれば、提案していただきたい。

反町委員 新しい住民の人に対して、子どもが冊子等情報を得て、ここに行ってみたいと思ってもらえるような PR の仕方をしていく。たとえば、中原区の中で井田山というのは、カブトムシが取れる場所なので、そういうアピールの仕方もやったらどうか。もう一つが、中原区の情報発信をテーマにちょっとした番組・PR 映像をつくったらどうか。YOUテレビでやっているような「地域の魅力を発信する番組」とか川崎発の3姉妹アーティストのちょっきんずさんというのがいて、地元のローカル番組や地域資源を掘り下げていく番組をやっている。中原区の人気のレポーターに出てもらって映像をつくって、活用していくのはどうか。

事務局 中原区の魅力発信ということで、なかはらメディアネットワークを発足した。地元の6社で放送関係・ラジオ、地域情報誌などいろんな媒体をミックスして発足した。現在は各メディアが自由に中原区の魅力を発信しているが、来年度は、行政と各社が委託契約を結んで、時間枠と紙面を確保して共通のテーマで発信する方向で検討している。この先一步進めて、市民記者を養成し、その方が中心となって、取材していってもらおう。メディアと市民記者が一緒になって、中原区の魅力・見どころを発信していってもらおう取組まで発展させていきたい。その映像も中原区のHPを通じてユーチューブに流していくところまで発展できたらよいと思う。

川連部会長 先程、反町委員から出た井田の話もよいが、「井田の山を守る会」の会長さんが区民会議にいる。井田山には何度か足を運んでいるが、不便な場所で小杉に帰ってくる帰りのバスがほとんどない。行政の方で、交通網を調べてほしい。

事務局 メディアの方は、いろいろ計画が組まれており、メディアを活用したまちづくりができるので、区民会議として具体的な提案もできる。効果的な PR の方では、既存

のイベント（区民祭）や前回検討したカフェの話にも活用して PR していく。高層ビルが沢山建って注目されている街なので、それを活かした提案も考える。子どもが行きたくなるような PR の仕方をするまた、子どもに企画を考えてもらう。行事を行う側と参加する側の意識をどのように変えて新旧の住民をつなげていくかを考えていく。あと子どもを呼ぶにはどうしたらよいか。

成田委員 中原区内には自主保育グループが何か所かあり取りまとめを子育てネットワークや社会福祉協議会が行っている。子育てグループの中で、イベントとして「近所の史跡めぐり」等の親子が集えるハイキング形式のウォーキングラリーをしたらどうか。その為にはノウハウをもった方に指導してもらう必要がある。

PR 的な発信として、出産届を出された時に頂く冊子があり、その中に遊びに連れて行く公園は、こういう場所があると載っているの、住んでいる範囲で、中原の史跡とか地域のイベント・お祭り等の行事の情報が掲載されていると参考になる。

事務局 親子で動ける小さい範囲の情報があると良い。今後、課題調査部会で検討していく方向性は、効果的な PR 方法と新旧住民の意識が変わっていくための方法。

板倉委員 テーマとして、新しいイベントを考える必要がある。具体的なイベントとして、散策のイベントとかが、検討の対象になってくるのか。

事務局 参加しやすい、市民活動団体と連携してどんなことが出来るのかを考えていく。

藤嶋委員 昔から住んでいる人の地域に対する意識がとても強い。地区によって違うと思うが。

事務局 新しい人が入るとこういう良いメリットがあるというのをアピールしていく必要がある。

富岡副部長 新しい人が入るとまちが活性化して、活気に満ちてくる。子どもをいれていかなないと街はよくなると思う。

事務局 他都市の事例を出しながら、専門的に検討していても良いのではないか。ある事例で、地元のお祭りに住んでいないオフィスの人が参加して、活気を取り戻したという事例がある。そういった事例を受け入れる側の人に紹介していくやり方もあるのではないか。

富岡副部長 そういう成功例の紹介や中原区内の歴史的な資産とかを映像で撮って、インタビューをして、活用するとよいと思う。

事務局 自分達の地域に素晴らしいものがあってそれを広く知ってもらいたいと思えば、自然と新しい人を受け入れざるを得ないのではないか。

川連部長 中原区の良い所をメディアで流すのは有効である。新しい住民に出てもらう為には、イベントが必要だと思う。

藤嶋委員 中小企業が中原区は大事であるが、それに対していろいろな集まりがあるのか。

事務局 中原区が直接かかわって中小企業の方々と何かやることはないが、等々力工業会に小学校の生徒が行って、廃材を使って物を作ったり、そこで働く人の姿を見学して社会科の授業にしていたりする。以前、等々力工業会にお願いしたことがあって、出張で万華鏡づくり体験とかやってくれたりした。自分達の技術を PR しようという活動をされている団体である。PR したい団体とどこに PR したらよいかわからな

い人達を結び付けていくと発展して外にでてくると思う。

事務局 「テーマのタイトル」を検討して、全体会で発表する内容を考えたい。

中原区に既にある魅力を効率的にPRしていく方法を考える。活性化をしていく為には、新しい人と前から住んでいる人たちが、交流していく必要がある。

キーワードとしては、「魅力発信」「新旧住民・多世代交流」がある。

川連部会長 中原区の各商店街で行われているイベントの情報の発信も大事である。

事務局 「魅力資源の効果的な発信と魅力を活かした地域住民の交流」

藤嶋委員 「魅力資源」という表現は分かりにくいので、「中原区の魅力」が良いのではないかと。「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活かした地域住民の交流」

事務局 どういうふうにメディアを活用していくかと既存のイベント（区民祭）を活かして使っていくか。こどもが参加しやすくなったら人がもっと沢山集まるのではないかと。高層ビルが建っている地域を上手く生かしてPRしていくことが、有効的な発信方法だと思う。行事に迎え入れる側も行事に参加する側も意識を変えて繋がっていく。

稲富委員 中原音頭だけではなく、中原カルタもいいのではないかと。中原地区連合のイベントでカルタをつくった。

事務局 カルタは、川崎カルタと宮前区が区民提案して出している。川崎市では、カルタが売れているらしい。

稲富委員 サブタイトルで「今ある中原の魅力を伝えよう」をつけたらどうか。

川連部会長 3つ目のテーマは、「中原区の魅力の効果的な発信と魅力を活かした地域住民交流」とし、サブタイトルとして「今ある中原の魅力を伝えよう」とする。

#### イ 課題調査部会委員の改選について

事務局から資料4について、説明。了承される。

川連部会長 以上で本日予定していたすべての議事が終了した。

第5回中原区区民会議運営部会を終了する。

以 上